

# 公民館報

町館信日円所  
戸民常15  
須夫田月部堂印  
小中成毎一  
発行所 御前堂印

## 老人から見現代社会



去る十月十九日、小須戸町に於て第一回の町民大会が開催されました。式典の後、意見発表の場で、小須戸町老人クラブ連合会吉田源吉さんの発表文をここに掲載いたしました。

私が老人会に入会したのは昭和五十二年正月元日でありました。年賀の挨拶廻りをしていた折、ある先輩の誘いで仲間入りをしたのでしたが、その時は「老人」と聞いただけで正直な処大変ショックでした。「自分もそんな年齢になつたのか、未だ元気がない。なんて老人と呼ぶなればならないのだらうか」入会に対してはかなりの抵抗がありまして、しかし当時を振り返って見るに、あの時入会



大晦日 写真クラブ 斉藤登市

したことを大変よかつたと感じております。種々な活動を通して自分の半生を振り返りながら之からの人生の生き方はどう在るべきかを痛切に考えさせられます。

現在の社会構造から始め我々の若かりし頃とは全く違つた社会の在り方を見て、之で正しいと認めた。之で良いのだらうかと常々不安を感じております。

戦後男女同権の時代になりましたが、之がそもそもの世の中をこのように変えた一番大きな原因ではないでしょうか。男女同権も確かに良いことではあります。

を生き大きな原因となつたのではないのでしょうか。妻は夫を尊敬し、夫は妻を敬愛する姿があつてこそ、またその子供達も両親を敬愛し、人を尊敬してゆくものと信じます。

に感じられます。折に触れ若者の場に於てこのよ様な話を話せば「そんな話はもう時代遅れだ、古くさい」といわれるのが落ちでしょう。

戦後あらゆる困難を乗り越えてこまで立派に築き上げた世の中を後退させないようの子孫の為に頑張るようではありませぬか。

老人会と白髪が集い寄り己が半生の生き様を徳ぶ。(よしだ)

大正琴クラブは今年一月に発足した出来たてのクラブです。このクラブは三つのグループに分かれて発足しました。一つは福祉センターで練習しているグループ、二つめは公民館のグループ、三つめは矢代山地区のグループ。

今日公民館で練習しているグループにおじゃました。

毎月第一、第三水曜日の午後七時より中央公民館の二階練習室で行つていきます。正琴の練習方法は、まず楽譜を読むことから始め、講師先生の弾く手本を聞き、そして今度は自ら弾いてみるという練習を繰り返して、次第に楽譜を離れて、こなげだならない宿題が出るようになります。『家事があるので苦勞します』

と会員の方が言われる反面、楽しみにもなっているように見受けられます。この楽器の魅力は何ん

に感じられます。折に触れ若者の場に於てこのよ様な話を話せば「そんな話はもう時代遅れだ、古くさい」といわれるのが落ちでしょう。

戦後あらゆる困難を乗り越えてこまで立派に築き上げた世の中を後退させないようの子孫の為に頑張るようではありませぬか。

老人会と白髪が集い寄り己が半生の生き様を徳ぶ。(よしだ)

老人会と白髪が集い寄り己が半生の生き様を徳ぶ。(よしだ)

老人会と白髪が集い寄り己が半生の生き様を徳ぶ。(よしだ)

老人会と白髪が集い寄り己が半生の生き様を徳ぶ。(よしだ)

### 中央公民館のクラブ紹介 (五)

### 練集日が待ち遠しい 大正琴クラブ

### 第三十五回町民卓球大会 結果

### 第六回町民バドミントン大会結果

### 昭和五十九年度菊花展入賞者

### 第十五回県ジュニア美術展入賞者

### 第十三回県芸術美術展入賞者

### 賞者

市中西公民館大会ではお昼休みのアトラクションとして大正琴を演奏していただきました。約八十名の聴衆の前で発表できたのは大変良かったと喜んでもらいました。

今後の方針として、歌謡演歌を演奏してみたいと張り切っています。

十一月二十五日(日)町民体育館に於て開催されました。成績は次の通りです。

十一月三日(日)、諏訪神社境内で行われた大会の結果は次のとおりです。

十一月三日(日)、諏訪神社境内で行われた大会の結果は次のとおりです。

十一月三日(日)、諏訪神社境内で行われた大会の結果は次のとおりです。

十一月三日(日)、諏訪神社境内で行われた大会の結果は次のとおりです。

十一月三日(日)、諏訪神社境内で行われた大会の結果は次のとおりです。

# 記念講演会盛會裡に 終了

## 小須戸分館青少年部

小須戸分館青少年部、小須戸小学校補導委員合同第一回記念講演会は盛會裡に終了いたしました。十一月十七日(土)、家庭・学校・地域の連携



のもと、青少年の非行防止と、心身ともに健やかに育つことを願って、講演会を行いました。約二百名の聴衆が、元コローニ白岩の里所長

花嶺正夫先生の講演に耳を傾けました。ユーマのある先生のお話の中で、「親は子供の鏡である。家庭内の生活環境が、子どもに与える影響が大きい。子どもを持つ親として身に感じられました。」

午前 映画  
分館球技大会  
十一月二十三日於町民体育館

今年も残り少なくなつた今日この頃、皆様どうお過ごしでしょうか。さてサークルあおぞらも、活動を始めて一年になります。町の皆様にも、サークルあおぞらの存在を知っていただくため、この一年間は無我無中で活動してきました。そして少数ですが、部員も増え、人との触れ合いを知り、今まで隠れていた新しい自分と出会い、これも私達の支えとなつて下さった方々のご支援、ご協力があったからです。これからも私達サークルあおぞらは、他のサークルや町の皆様との交流の輪を広げたり、ボランティア活動も取り入れていきたいと思つております。

最後に現在サークルあおぞらでは、社交ダンスの講習を金曜日に、練習していただきます。どうぞ皆様のご参加を、お待ちしております。

小須戸町公民館では恒例の歳末助け合い托鉢を五日間にわたり修行させました。皆様のご協力により、標記の通り、町長さんを通じ関係社会福祉機関へ寄付いたしました。世の恵まれた方々の為にお役に立つことを願っております。本当に有難うございます。

なお修業中、中食のご供養を賜りました左記各家に対し厚く御礼を申し上げます。

新保 高山与三郎殿  
矢代田 石井 栄一殿  
天ヶ沢 新井田秋蔵殿  
小須戸 星野三郎殿  
水田 木村 耕平殿  
(仏教会長坂口道海)

## 五泉に生まれた画家 小須戸にゆかりのある 阿部展也の生涯

報(十二月七日朝刊)に紹介されたが、阿部展也(本名芳文)は幼少時代、小須戸町二ノ丁祖父中村甲子七(半五郎)氏宅(現在中村洋装店)で、先になくられた貞一さんと一緒に生活して来た。この冊子は先日新潟日

その後ヨーロッパ、アメリカに渡り特にパリ、ローマに在任し抽象画、超現実派の世界的画家として大成された。昭和四十五年ローマの病院にて五十八才の生涯を閉じた。

小須戸町にも姉愛さんや本人とも親交のあった方々がおられます。関心のあられる方ご寛いくださいと思つた。夏井さんのご好意に厚く感謝いたします。

十一月二十五日(日) 商工会に於て小須戸町野球連盟の通常総会が行われ、役員改選が行われました。新役員は次のとおりです。

十一月三日の総会において小須戸町審判部員の交替がありました。

相互扶助・地域の連携性が指摘される昨今であり、小須戸町審判部員は、小須戸小学校当局と協議の上、関係教職員のご理解を頂き、やがてまた厳しき「年越し」を迎える「一人暮らしのお年寄り」へあてて、同校児童からのお手紙を差上げることにいたしました。

秋雲の流れ映す佐渡の海  
山紅葉ゴッホの狂いめし顔  
晩の稲一穂毎に起る朝露  
白葉を抱けば起る朝露  
一人一人長湯となり冬近し  
一心に描くこともや大花野  
陽の射しつ雨降っている秋の旅  
家の格守りて芽さ紅葉宿  
爽かに目覚むる枕もとの地固  
さいはては秋の便りの利尻昆布  
時雨や孫の温みを背にとむ  
芥焼く火の色ぬくし秋深む  
突き放す子に悔のこる鰯雲  
母の忌の仏具磨きぬ秋の雨  
コスモスやいつもどこかに風ありぬ  
朝寒や休みにも鳴る始業ベル  
風いでて稲層火柱を包みけり  
大根のぐんと太りし旅の留守  
行く秋や枯鬼灯の網袋

# 催しものご案内

元且にマラソン、第十三回町民元且マラソン大会開催

今年で十三回を教える町民元且マラソン大会を昭和六十一年元且に行ないます。

記録証を準備。申込みは十二月二十二日(土)までに教育委員会又は中央公民館へ。

記録証を準備。申込みは十二月二十二日(土)までに教育委員会又は中央公民館へ。

電話級アマチュア講習会開催について

無線クラブ

柔剣道振興会だより

祝昇段 剣道

祝昇段 柔道

## 中学生文芸

鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会  
開鍋の中に大きな下駄浮かぶ  
開鍋のふくらボカリ油あげ  
開鍋の中を彩るわたり蟹  
開鍋でつかい蟹が鍋泳ぐ  
鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会  
鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会  
鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会  
鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会  
鍋の中かまぼこ浮き出す開汁会

川瀬 直美  
白井留美子  
高橋千恵子  
保科あゆみ  
小見 伸雄  
泉 雄二  
上田 完司  
発地 勝彦  
玉村 佳苗  
保科寿美子  
高橋 綾子  
西村久美子  
田代 美加

十一月旬会報

野 素 妙 太 香 可 紀 松 久 富 露 芳 秀 松 和 良 遊

短歌

秋雲の流れ映す佐渡の海  
山紅葉ゴッホの狂いめし顔  
晩の稲一穂毎に起る朝露  
白葉を抱けば起る朝露  
一人一人長湯となり冬近し  
一心に描くこともや大花野  
陽の射しつ雨降っている秋の旅  
家の格守りて芽さ紅葉宿  
爽かに目覚むる枕もとの地固  
さいはては秋の便りの利尻昆布  
時雨や孫の温みを背にとむ  
芥焼く火の色ぬくし秋深む  
突き放す子に悔のこる鰯雲  
母の忌の仏具磨きぬ秋の雨  
コスモスやいつもどこかに風ありぬ  
朝寒や休みにも鳴る始業ベル  
風いでて稲層火柱を包みけり  
大根のぐんと太りし旅の留守  
行く秋や枯鬼灯の網袋

秋葉松林  
虫に枯れて命終わりし若松に梅雨のつる草から  
みていたり

我妻 清作  
伊藤 照溪